

《教育長メッセージ 第58号》



『人事異動』

この時期、夕方、街を歩くと花束を抱えた人に出会います。
退任式や離任式があったのでしょうか。
歓送迎会があったのでしょうか。
仲間への感謝の気持ちの花束なののでしょうか。大切に花束を抱えた人に出会おうのです。

私は、職として、3月末に、退職の教職員への辞令を手渡し、4月当初に、昇任や採用、異動の教職員に辞令を手渡しします。

最近、私と同年代で、ともに学校で過ごした教職員に辞令を渡すことが多くなり、その人その人の生き方を想うようになりました。

特に、退職の方々は、多くの方が30年から40年の間、教職員として学校で仕事をしてきました。

自らの人生を教育に捧げてきたと言っても過言ではないのです。

ふり返ってどんな想いでいるのでしょうか。

どんな仕事でもそうですが、教職員も決して楽な仕事ではなく、さまざまな苦労があったことでしょう。

ただ、教職は、子どもたちと接して、その成長を支える仕事であることから、子どもたちの成長を子どもとともに実感できることから、苦労した分、努力した分、子どもたちから返してもらった喜びも大きかったことでしょう。

私は、私の願望として、退職のみなさんひとりひとりが、「教職員として仕事してきてよかった。」「教職員としての人生はしあわせだった。」とふり返ってほしいと思っています。

退職の方々、ひとりひとりの胸には、どんな思いが胸にこみ上げているのでしょうか。

花束を抱えた人を囲んで談笑しながら駅に向かう人々。

宴の後なののでしょうか、ちょっと疲れて花束を抱えて歩く人。

「人事異動」には、時に、その人の人生を左右するようなドラマがあるようです。

ことが始まったり、終わったりすることには、不安と希望が交錯します。
終わるにせよ始まりでもあります。

どの人にとっても、終わりの「よかった。」と思えるような始まりであ
ってほしいと願うのです。

次回は、「比べること」について、私の考えを述べてみたいと思います。